

大空 —放哉だより—

第171号 2025.11.5

発行:小豆島尾崎放哉記念館 〒761-4106 土庄町本町甲 1082 ☎62-0037

第25回 放哉ジュニア賞

『放哉ジュニア賞』は、放哉俳句を若い世代に伝え継承していくために、小豆郡内の小・中学生を対象として制定したものです。今回もたくさんのご応募をお待ちしています。

「放哉」南郷庵友の会

締め切り:2025年12月15日(月)必着

【問い合わせ先】◎「放哉」南郷庵友の会事務局 62-0327 ◎小豆島尾崎放哉記念館 62-0037

第9回 尾崎放哉賞

「尾崎放哉賞」は、放哉の愛した自由律句の魅力に世に広め、多くの方々に自由律俳句に親しんでいただくことを目的として自由律俳句を公募し、青穂の大会で表彰を行うものです。どうぞふるってご応募ください。お待ちしております。

「青穂」代表 小山貴子

締め切り:2025年11月30日(日)当日消印有効

【問い合わせ先】◎ホームページ <http://www.housai-shou.com/>

◎メールアドレス hosaisan581@gmail.com

◎TEL/FAX 06-6844-1719 (小山貴子)



※作品募集要項・投句用紙は記念館にあります。

随想『北朗来庵』は、大正14年11月26日から30日に内島北朗が南郷庵を訪れた事を、放哉が書き記したものです。その間にどのような事があったか、個条書きしている一部分をご紹介します。

「△北朗一日寒霞溪に至りおみやげに紅葉の枝をもつて帰る、それが甚汚ない紅葉、放哉未だ寒霞溪を知らず、其の紅葉を活けてながめて居ること」とあります。

その昔、寒霞溪には正岡子規、河東碧梧桐、井泉水、山頭火なども訪れており(『名勝寒霞溪に登った俳人たち』より)、放哉も北朗とともに寒霞溪に登っていれば、そこでの句を詠んでいたかもしれませんね。ちなみに、来庵時は互いに「大に句作しようぢやないか」と話していたのに、「アレ程意気込んで居た句が一句も出来なんだことをもつて見ても、たゞ、ボンヤリして喜んで居たことが解ると思ふ…(中略)…小供が三人で蟹に小便かけて居る絵をはり付けて放哉が毎日見て喜んで居るのだが、之を二人で眺めては、只五日間と云ふものニコくゴタくして居たものと見える…」と、楽しく過ごしたように感じられます。全文を読むと、放哉が北朗との再会を心待ちにしていたかなど関係性も見えてきます。興味のある方はぜひ読んでみてください。

11月



日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						
●放哉だより発行日 □記念館休館日 □資料館休館日						

瀬戸内国際芸術祭2025

閉幕まで残り4日となりました。記念館は割引協力施設としてお客様をお迎えし、放哉や自由律俳句を知らなかった方々に来ていただける、良いきっかけとなりました。ありがとうございました。会期はあと数日ですが、引き続き芸術の秋をお楽しみください。